

動植物検疫探知犬ボウ号の里親募集要綱

農林水産省動物検疫所では、本年3月31日に退役予定の動植物検疫探知犬ボウ号を引取っていただける里親を募集いたします。

御応募に当たっては、以下の要件及び応募方法を御確認ください。

1. 応募要件

- (1) 動物の飼育が可能な住居に居住していること（国内在住者に限る）
- (2) 動物を飼育することについて同居者全員の同意を得ていること
- (3) 住居に飼育している動物がいる場合、犬との同居が可能であること
- (4) 動物の虐待歴がないこと
- (5) 健康な成人であること（未成年不可）
- (6) 引取り後から天寿を全うするまで、責任と愛情を持って飼育が可能であること
- (7) 万一継続して飼育できなくなった場合に備えて、代わって飼育することのできる親族、知人等の飼育協力者を確保できること
- (8) 営利目的でないこと
- (9) 管理所（農林水産省動物検疫所羽田空港支所（住所：東京都大田区羽田空港2-6-4 羽田空港 CIQ 棟））で実施する、ボウ号との面会及び飼育に関する説明会（令和4年3月1日（火）実施予定）に御本人が来られること
- (10) ボウ号に関する物品管理官・分任物品管理官もしくは物品供用官ではないこと

2. 応募方法

必要書類を農林水産省動物検疫所企画管理部企画調整課検疫探知犬管理チームへ郵送にてお送りください（締切日必着）。

3. 必要書類

- (1) 動植物検疫探知犬の引取り希望について（様式1）
- (2) 集合住宅または賃貸住宅に居住している場合は、犬の飼育が可能であることが分かる賃貸契約書または管理規約の該当部分の写し
- (3) 身分証明書

※応募に関して得た個人情報は、今回の応募に関する事務のみに使用するものとし、適切に管理します。

4. 応募書類提出先・問合せ先

農林水産省 動物検疫所 企画管理部企画調整課 検疫探知犬管理チーム

〒235-0008 神奈川県横浜市磯子区原町 11-1

電話：045-752-7010

応募書類提出締切日：令和4年1月31日（月）

書類選考結果通知日：令和4年2月18日（金）

※書類選考通過後、面会及び説明会（令和4年3月1日（火）実施予定）終了後に里親を希望される方が複数名いる場合、抽選にて里親を決定します。なお、新型コロナウイルス感染症の発生状況に応じて、面会及び説明会の日程・内容を変更する場合がございますので、予め御了承ください。

動植物検疫探知犬の引取り希望について

記入日： 令和 年 月 日

ふりがな		
氏名		
自宅住所		
電話番号		
メールアドレス		
引取りを希望する 動植物検疫探知犬	ボウ	
引取り後の飼育場所 (自宅と異なる場合、 住所も記載すること)		
要件確認事項		
飼育場所は動物の飼育が可能な住居ですか	はい ・ いいえ	
同居の方全員が動物を飼うことに賛成していますか	はい ・ いいえ	
住居に飼育動物がいる場合、犬との同居が可能ですか	はい ・ いいえ	
動物を飼育する上で健康上問題ありませんか	はい ・ いいえ	
万一継続して飼育できなくなった場合に備えて、代わって飼育 することのできる親族、知人等の飼育協力者はいますか	はい ・ いいえ	
希望理由		
		動物検疫所確認欄
引取り意思の最終確認 ※引退犬の説明会及び面会実施後に記入		
最終的に動植物検疫探知犬の引取りを希望しますか	はい ・ いいえ	
日付： 令和 年 月 日 氏名 _____		

ボウ

品 種 : ビーグル

毛 色 : トライ

性 別 : オス (去勢)

体 重 / 体 高 : 11.8 kg/41 cm (12月16日現在)

生年月日 (年齢) : 2013年3月21日 (8歳)

出 生 地 : アメリカ合衆国

活 動 期 間 : 2016年5月～2022年3月

管 理 所 : 農林水産省動物検疫所羽田空港支所
東京都大田区羽田空港2-6-4 羽田空港CIQ棟

性 格 : 好奇心旺盛なのに臆病。人懐こい。草を食べるのが大好き。

特 徴 : 細身の顔と体。ジャンプ力が強い。

経 歴 : 2016年5月から関西国際空港にて活動を開始、2020年4月に羽田空港へ異動し、現在に至ります。
関西国際空港在籍時には、大阪国際フェリーターミナル、高松空港、松山空港、米子空港、徳島空港、新石垣空港にも出張して探知活動を行いました。また、空港内外のイベントでの探知デモンストレーションや小学校での訪問授業などの広報活動も行いました。

健康管理上の留意点 :

○犬舎にいる時等探知の時以外では大きな声で吠えることがあります(同じ部屋で会話できない位の音量)。例として朝夕とも犬舎に到着してすぐに餌を与えますが、餌を貰うまでは吠えています。屋外では空を飛ぶ鳥を見つけ吠えることもあります。

○アメリカにいた頃に両前足を出血するまで舐め続けたことがあり、ストレスをためないよう注意する。

○僧帽弁閉鎖不全症との診断あり。

<経過>

・2020年10月に健康診断で軽度の心雑音が認められたことから、精密検査を受検した。その結果、僧帽弁閉鎖不全症(ステージB1からB2への移行期)との診断であった。この時点では、投薬等の治療を要する状況ではなかった。



(獣医師からは、「ステージB1は処置不要、ステージB2は強心剤の服用、ステージCまで進むと探知活動は不可能、肺水腫の治療を要する。病気の進行スピードの予測は不可能。」との説明を受けている。)

・2021年3月の検査で左心房が前回検査(2020年12月)と比較して大きくなっており、血液のうっ滞量が増えているが、血液の押し出し力は前回よりも良い数値が出ているとの診断。このことから心臓の負担を下げるために、末梢血管を拡張する降圧剤を1日1回の投与を始めることとなった。なお、降圧剤は今後一生飲み続ける必要がある。(参考:1日1回で月10,500円程度)

・2021年6月、9月の検査では、病状に進行はみられなかった。

・2021年12月の検査で前回(2021年9月)と比較してわずかに心臓が大きくなっており、左心室のエコー検査による指標が正常値のボーダーライン付近にある。ステージはB2に入ったばかりのところ。このため、次の検査(2022年3月)後に強心剤(参考:降圧剤と強心剤の合剤を使用すると1日1回で月23,000円程度)投与が必要になることが予想される。

・2021年12月にドッグドックを受け、血液検査が正常(10月の定期健診の結果)であること、心臓を除く内臓と泌尿器及び骨格系には異常所見がないことを確認した。なお、エコー検査で胆のうに胆泥がわずかに、X線検査で消化管内に数個の極小さな石粒が見られた。

<主治医からのアドバイス>

・動物病院で3~6ヶ月毎定期的に検査を受けることが望ましい。(現在は使役犬のため3ヶ月毎に検査を受けている。)

・探知活動は可能で、現状では少し走ったりする程度は問題ない。(運動はリードを付けた状態で少し走る程度にとどめ、自由に走らせないようにしている。)

・現在、症状はないが、繰り返し咳をする、呼吸が荒くなった、散歩を嫌がる場合は、心臓に変化が起きたことが疑われることから速やかに動物病院を受診すること。

※僧帽弁閉鎖不全症については、面会及び説明会(令和4年3月1日(火)実施予定)の際に詳しく御説明します。